

小学校におけるキャリア教育に関する一考察

木村祐介

(茨城県取手市立六郷小学校)

【要旨】

本稿の目的は、小学校におけるキャリア教育を有効にするために、現職の小学校教員に対してキャリア教育に関する意識調査等を行い、分析をし、今後における有効な実践への手がかりを得ようとするものである。

分析の結果として、キャリア教育を行っていく上で望むものとしては、指導力向上のための情報交換や研修機会、関連教材や資料の公開など、キャリア教育の情報に関することを望んでいる意見が多いという結果が得られた。また、キャリア教育の意義の理解の差によって、実践への取り組み方に違いが見られることが理解できた。キャリア教育の意義を理解している教員は、キャリア教育の意義を理解していない教員に比べて、教員間での話し合いや、指導力向上のための情報交換、研修への参加などの項目で肯定的な回答をしているといった結果が得られた。

1. はじめに

我が国におけるキャリア教育の動向については、中央教育審議会答申「初等中等教育と高等教育との接続の改善について」（平成 11 年 12 月）、若者自立・挑戦戦略会議「若者自立・挑戦プラン」（平成 15 年 6 月）、文部科学省「キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書」（平成 16 年 1 月）などからも理解できるように、その重要性や必要性が提言されるとともに、取り組み等においても徐々に整いつつあると思われる。

中央教育審議会答申「初等中等教育と高等教育との接続の改善について」によれば、キャリア教育については「学校と社会及び学校間の円滑な接続を図るためのキャリア教育（望ましい職業観・勤労観及び職業に関する知識や技能を身に付けさせるとともに、自己の個性を理解し、主体的に進路を選択する能力・態度を育てる教育）を小学校段階から発達段階に応じて実施する必要がある。キャリア教育の実施に当たっては家庭・地域と連携し、体験的な学習を重視するとともに、各学校ごとに目標を設定し、教育課程に位置付けて計画的に行う必要がある。また、その実施状況や成果について絶えず評価を行うことが重要である」としている¹⁾。

しかしながら、現職の小学校教員の中には、小学校におけるキャリア教育の実践を考えていく上でいくつかの疑問を持っているものも少なくない。例えば、小学校でのキャリア教育の必要性やキャリア教育のあり方についてなどである。これらは、小学校におけるキャリア教育の実践についての情報量が不足していることを表しているのではないかと考えられる。

そこで、本研究においては、小学校におけるキャリア教育の現状を把握するために現職

の教職員に対してキャリア教育に関する意識調査を行い、今後における小学校でのキャリア教育の課題や有効な取り組み等について検討していくものとする。

2. 研究方法

茨城県内の公立小学校に所属する教員に対してアンケート調査を行った。サンプルの抽出については、同じ教育事務所に属する3市6校の教員を対象とし、無記名自記式質問紙を直接配布および郵送し、回収を行った（配布150枚、有効回答者114名、回収率76%）。内訳としては、教諭91名、常勤講師23名の計114名である。

調査内容としては、キャリア教育に関する項目「キャリア教育についての意識」、「キャリア教育を行う上で望むもの」、「キャリア教育・指導の体制について」、「教員のキャリア教育に関する指導力向上のための施策について」、「校内のキャリア教育の施策の評価について」の以上5項目とした²⁾³⁾。

分析方法としては、上記のアンケート調査の結果をもとに、単純集計および質問間のクロス集計から分析を行った。各教員のキャリア教育についての意識の差異から課題を考察していく。

3. 調査結果

(1) キャリア教育についての意識

まず、キャリア教育についての意識を見ていく（図1、図2）。

「小学校におけるキャリア教育は必要だと思うか」の問いに対しては、「とても必要である」、「やや理解している」の肯定的な回答が約65%であり、多くの教員は小学校でのキャリア教育が必要だと思っているといえる。

次に、「キャリア教育の意義について理解しているか」の問いに対しては、「よく理解している」、「やや理解している」の肯定的な回答が約51%、「あまり理解していない」、「理解していない」の否定的な回答が約49%であり、キャリア教育の意義の理解度に関しては、肯定と否定が同程度であった。

図1 キャリア教育の必要性について

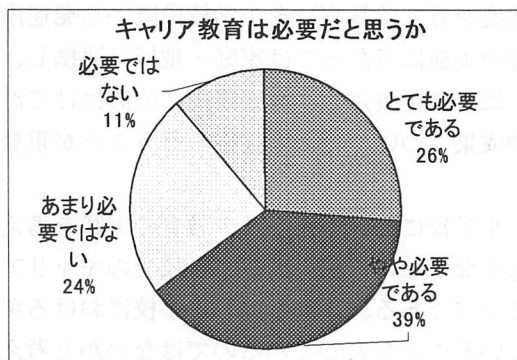
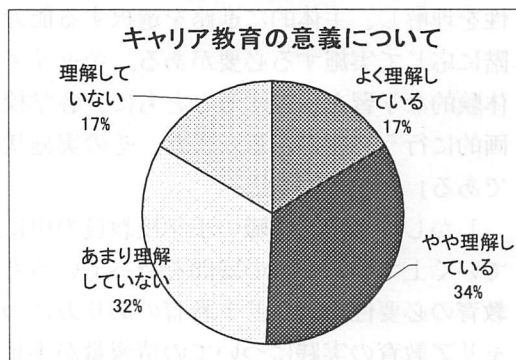


図2 キャリア教育の意義について

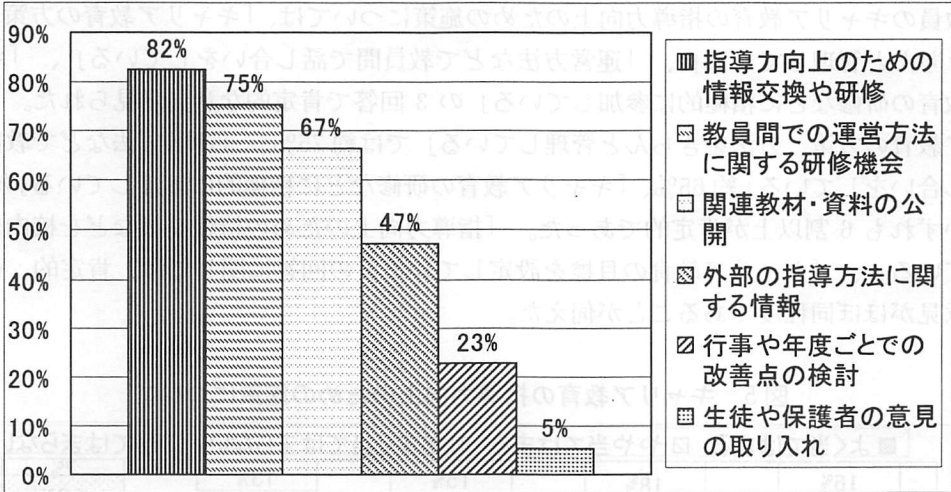


(2) キャリア教育を行う上で望むもの

次に、キャリア教育を行う上で望むものについて見ていく(図3)。この設問の回答については、一人につき3項目回答してもらうこととした。

各教員がキャリア教育を行う上で望むものについては、「指導力向上のための情報交換や研修」約82%、「教員間での運営方法に関する研修機会」約75%、「関連教材・資料の公開」約67%の順に高い回答になっている。その他にも「外部の指導方法に関する情報」も約47%と半数近くが望んでいるといえる。

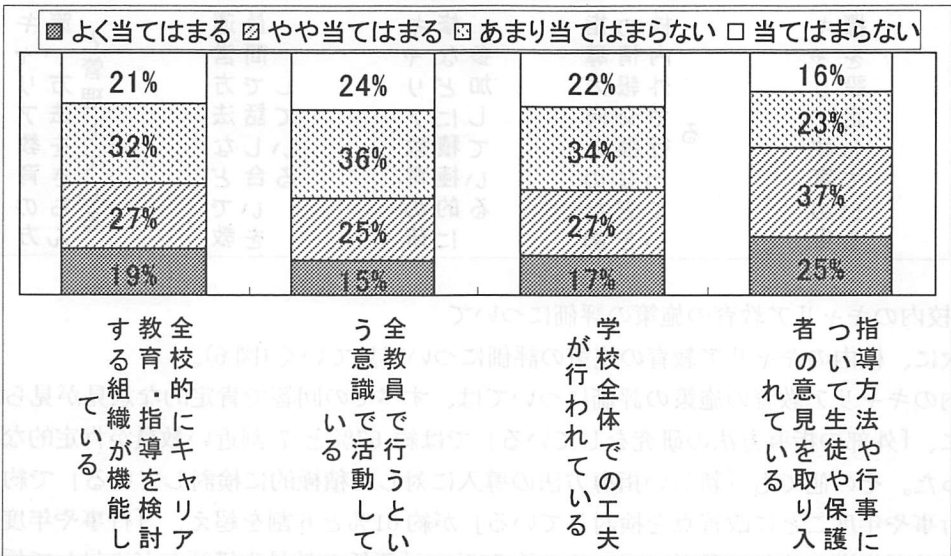
図3 キャリア教育を行う上で望むもの



(3) キャリア教育・指導の体制について

次に、キャリア教育・指導の体制について見ていく(図4)。

図4 キャリア教育・指導の体制について



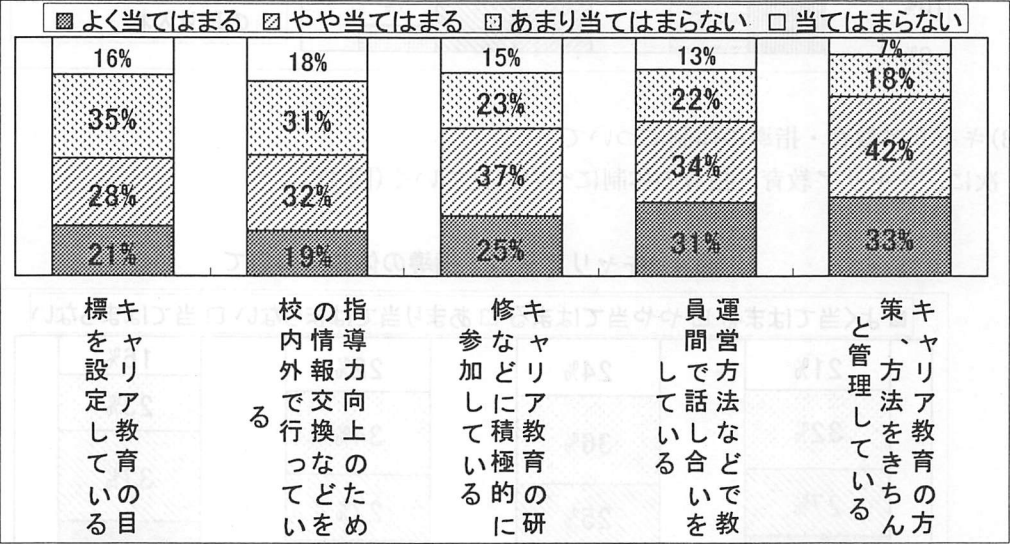
キャリア教育・指導の体制については、「全校的にキャリア教育・指導を検討する組織が機能している」、「全教員で行うという意識で活動している」、「学校全体での工夫が行われている」の3回答に否定的な意見が見られた。「全教員で行うという意識で活動している」では約60%、「学校全体での工夫が行われている」では約56%、「全校的にキャリア教育・指導を検討する組織が機能している」では約53%の順で高い回答であった。

(4) 教員のキャリア教育に関する指導力向上のための施策について

次に、キャリア教育に関する指導力向上のための施策について見ていく(図5)。

教員のキャリア教育の指導力向上のための施策については、「キャリア教育の方策、方法をきちんと管理している」、「運営方法などで教員間で話し合いをしている」、「キャリア教育の研修などに積極的に参加している」の3回答で肯定的な意見が見られた。「キャリア教育の方策、方法をきちんと管理している」では約75%、「運営方法などで教員間で話し合いをしている」約65%、「キャリア教育の研修などに積極的に参加している」約62%といずれも6割以上が肯定的であった。「指導力向上のための情報交換などを校内外で行っている」、「キャリア教育の目標を設定している」の回答に関しては、肯定的、否定的な意見がほぼ同程度であることが伺えた。

図5 キャリア教育の指導力向上のための施策について



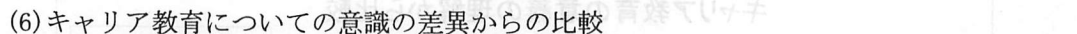
(5) 校内のキャリア教育の施策の評価について

次に、校内のキャリア教育の施策の評価について見ていく(図6)。

校内のキャリア教育の施策の評価については、すべての回答で肯定的な意見が見られた。特に、「外部の指導方法の研究をしている」では約67%と7割近い教員が肯定的な意見であった。その他でも「新しい指導方法の導入に対して積極的に検討している」で約63%、「行事や年度ごとに改善点を検討している」が約61%と6割を超え、「行事や年度の反省や意見が指導の改善に繋がっている」約58%、「新任の教員や講師などに対して援助が行

図6 キャリア教育の施策の評価について

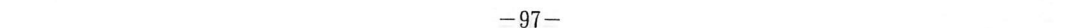
☒ よく当てはまる ☒ やや当てはまる ☐ あまり当てはまらない ☐ 当てはまらない



次に、キャリア教育についての意識の差が、キャリア教育を実践していく上でどのような影響があるのか探るために、(1)キャリア教育の意識についての設問「キャリア教育の意義について理解しているか」と(4)の設問「教員のキャリア教育に関する指導力向上のための施策について」との関連を見ていく。

方法としては、(1)の設問で「キャリア教育の意義を理解している」と回答した群を「肯定群」とし、「キャリア教育の意義を理解していない」と回答した群を「否定群」とした。二つの群に分けた後、(4)の設問とクロスさせ、それぞれの傾向を調べていくこととする。「肯定群」については「よく理解している」、「やや理解している」と回答した教員(n=58)とし、「否定群」については「あまり理解していない」、「理解していない」と回答した教員(n=56)とする。

キャリア教育の意義理解(否定群) キャリア教育の意義理解(肯定群)

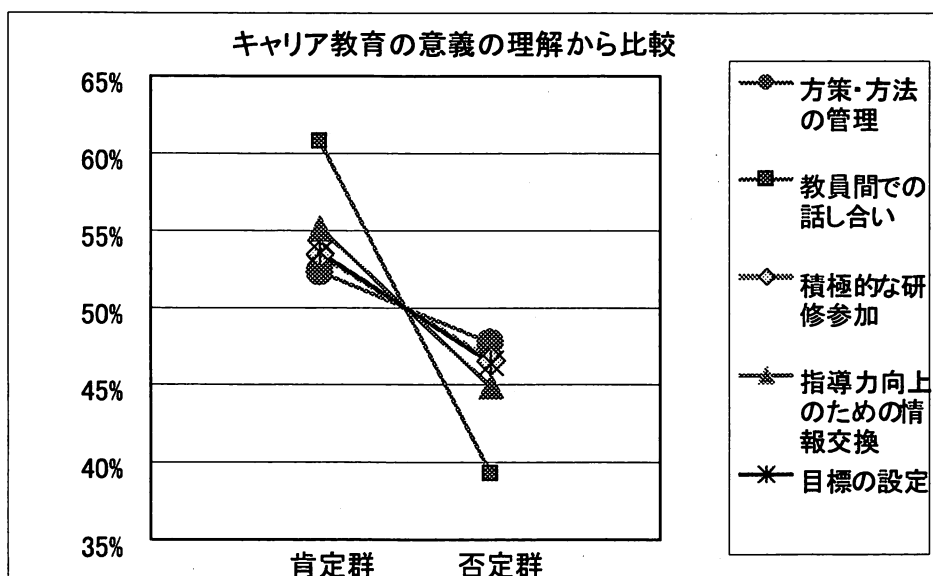


まず、「肯定群」の傾向としては、「教員間での話し合い」が約61%と最も高く、次いで「指導力向上のための情報交換」約55%、「積極的な研修参加」約54%、「目標の設定」約54%、「方策・方法の管理」約52%の順になっている（図7）。

次に、「否定群」の傾向としては、「方策・方法の管理」が約48%と最も高く、次いで「積極的な研修参加」約46%、「目標の設定」約46%、「指導力向上のための情報交換」約45%、「教員間での話し合い」約39%の順になっている（図7）。

上記の結果を比べてみると、「肯定群」と「否定群」の違いとして「運営方法などで教員間で話し合いをしている」、「指導力向上のための情報交換などを校内外で行っている」などの項目で大きな差が見られる。「肯定群」は「否定群」よりも「運営方法などで教員間で話し合いをしている」が22ポイント、「指導力向上のための情報交換などを校内外で行っている」が10ポイント高い回答をしている。次いで「キャリア教育の研修などに積極的に参加している」、「キャリア教育の目標を設定している」で8ポイント、「キャリア教育の方策、方法をきちんと管理している」で4ポイント高い回答となっている（図8）。

図8 キャリア教育の意義の理解の差異からの比較



4. 考察

今回の調査結果から、次のようなことが考えられる。

まず、各教員がキャリア教育を行う上で望むものについての結果から、「指導力向上のための情報交換や研修」や「教員間での運営方法に関する研修機会」、「関連教材・資料の公開」、「外部の指導方法に関する情報」を望む回答が多いことから、各教員が研修機会や情報交換、関連資料など校内だけではなく、外部からの情報についても望んでいることが伺える。

次に、キャリア教育・指導の体制についての結果からは、「全校的にキャリア教育・指導を検討する組織が機能している」、「全教員で行うという意識で活動している」、「キ

キャリア教育に関して、学校全体での工夫が行われている」の3回答で約半数以上の教員に否定的な意見が見られることから、学校を挙げてのキャリア教育への指導体制・組織作りがまだ不十分であるといえる。

次に、教員のキャリア教育の指導力向上のための施策についての結果からは、「キャリア教育の方策・方法をきちんと管理している」、「運営方法などで、教員間で話し合いをしている」、「キャリア教育の研修などに積極的に参加している」の3回答に肯定的な意見が見られたことから、キャリア教育に対して、積極的な姿勢が見られることが伺える。しかしながら、「指導力向上のための情報交換などを校内外で行っている」といった回答では約半数の否定的な意見が見られることから、指導力向上のための研修の機会に関してはまだ不十分な様子が伺える。また、校内のみならず、校外においても研修の機会を充実させていく必要があると考えられる。

次に、校内のキャリア教育の施策の評価についての結果からは、すべての回答で肯定的な意見が見られることから、キャリア教育の取り組みに対する評価基準がある程度満たされていると考えられる。特に、外部の指導方法の研究や新しい指導方法を導入するなど、研究、改善などが積極的に行われていることが伺える。

最後に、キャリア教育についての意識の差異からの比較の結果から、肯定群と否定群では、特に教員間での話し合いや情報交換など、情報の共有といった部分で大きな意識の違いが表れている。このことから、キャリア教育の意義を理解していることと、教員間での話し合いが行われていることの間には何らかの関係(相関)があると考えられる。また、研修への参加意欲、目標の設定にも違いが見られた。これらの結果から、キャリア教育が求められる背景やその基本的な理念についての理解は、実践をしていく上である程度影響があると考えられる。

上記のことをまとめると、現状においては、教員がキャリア教育を行う上で必要としているものは、校内外における研修の充実、他教員などとの情報公開、指導を行う上での体制・組織作りなどが挙げられると考えられる。そして、キャリア教育の意義を理解する、もしくははしているといった点が、実践に臨んでいく上で有意義なキャリア教育へと繋がっていくのではないかとと思われる。

5. 今後の課題

今回は、小学校教員を対象に小学校におけるキャリア教育を行う上での課題や取り組みについて考察してきた。今後においては、調査を継続していくとともに、教員との連携を図りながら、実践事例などを通して効果的なキャリア教育の方法を検討していく必要があると思われる。

また、今回の結果から、教員の多くがキャリア教育に関する指導力向上のための研修機会や情報公開を望んでいることが理解できた。今後については、研修機会のあり方や情報公開に関する調査等にも注目していきたい。

注記・引用文献

- 1) 初等中等教育と高等教育との接続の改善について 中央教育審議会、1999
 - 2) 三村隆男『キャリア教育入門 その理論と実践のために』実業之日本社、2004、pp161-163
 - 3) リクルートキャリアガイダンス net (<http://www.recruit.co.jp/shingaku/career-g>)
2008 年 11 月 1 日参照
- ※2)、3)の引用文献については、本調査のアンケートの質問項目を作成する際、一部引用及び修正の上引用した。

参考文献

- ・『キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議 報告書』文部科学省（平成 16 年 1 月）
- ・『キャリア教育の推進に向けて～児童生徒一人一人の勤労観、職業観を育てるために～』文部科学省（平成 17 年 5 月）
- ・『キャリア教育推進の手引 - 児童生徒一人一人の勤労観、職業観を育てるために - 』文部科学省（平成 18 年 11 月）
- ・『初等教育資料 3 月号』 文部科学省教育課程課/幼児教育課編集、東洋館出版、2007
- ・『児童心理 2 月号 夢・憧れ・生き方 小学校からのキャリア教育』、金子書房、2008